

## 都市総合力ランキング

森記念財団都市戦略研究所から2014年10月に「世界の都市総合力ランキング」というレポートが出されている。「地球規模で展開される都市間競争下において、より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹き付ける、いわゆる都市の「磁力」こそが「都市の総合力」である」との観点で、世界の主要40都市をランキングしたとの事。ランキングは経済・研究・



開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセスの6分野で各々のランキングを出し、それを総合して、総合力ランキングを作成している。2013年のデータを基に作成された本年のランキングは、一位ロンドン、二位ニューヨーク、三位はパリ、そして四位が、我が東京である。因みに他の日本の都市では大阪が26位、福岡が36位でランキングされている。2008年から始まっているこの「世界の都市総合力ランキング」に、今年新たな評価基準が加えられた。それは都市の「感性価値」というもので、従来の「物質的魅力―価値」のみではなく、「快適さ」「安らぎ」「興奮」など都市空間が「人間の感性に訴える力」を評価しようというものだ。その要素として「効率」「正確・迅速」「安全・安心」「多様」「ホスピタリティ」「新陳代謝」の6つを設定し、これに対応する指標を収集し、評価を行ったと

## 清野吉光氏のコラム 第73回

## 団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年(株)タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



## ロンドンと東京

の事。この「感性価値」を一部加味した都市総合力ランキングでみると、東京はパリを抜いて第三位に浮上するとの事。(感性価値のみランキングは間もなく発表されるらしい)。東京がこの「感性価値」という点で非常にすぐれたものを持っており、また2020年オリンピック開催に向けて、この東京の持つ感性価値を全世界にアピールし、総合ランキングでも、是非トップになっていきたいものだ。そしてその可能性は十分あると信じていた。

## 東タク協のロンドン視察

折しもこの11月に東京タクシー・ハイヤー協会による、ロンドンのタクシー事情の視察が行われた。直接には、当時予定されていた来年10月からの消費税10%に際し、世界基準と言われるロンドンの初乗り運賃を参考に、初乗り距離を短縮する事による初乗り運賃の低減を行いたい、その業界内の合意形成の為の視察と聞いていた。しかし、運賃

そのものについては安倍内閣の消費税アップの先送りにより、多分運賃改定も先送りされるのではないかとと思う。しかし、ロンドンタクシー事情視察は決して無駄ではなかったと思う。たまたまこのロンドン視察に参加されたタクシー会社の社長さんに御話を聞く機会があった。確かにタクシー、と言えばロンドンタクシー、所謂ブラックキャブの該博な地理知識は凄い物があり、その試験に受かるためには、「ザ、ノリッジ」という養成学校を数年かけて勉強せねばならず、10人の内7人は脱落してしまう。結果として、その事が自然な需給調整となつていくという。彼らにはロンドン中心部にあるトラファルガー広場を起点に半径9・66kmの範囲で、流し営業が許されており、二万三千台程の適切(?)な供給量と言う事もあり、売上も四百万から千九百万ほどあるそうだ。一方、ミニキャブという、こうした厳しい資格試験を受ける必要の無い車両が五万二千台程あり、流しの営業は出



先の世界の都市総合力ランキングで、ロンドンは一

めざすべき世界基準とは何？

来ないが、電話注文、予約で仕事をする乗務員がいる。東京のタクシー事情とは違い、二重構造になっており、しかも個人の営業であり、配車業務などはコンピュータキャブ社など別の配車会社が手数料を取って顧客らの注文を受け、配車をしているとの事。この辺のロンドンのタクシー事情の中に、今話題となっているハイローやUberなどの配車システムが浸透する条件があるのかも知れない。

位になっている。またタクシーと言えばロンドンタクシー（ブラックキャブ）が最高峰と言われる。したがって、運賃も含めてロンドンのタクシーの仕組みを「世界基準」として学ぼうという考えは、確かに一理あると思われる。しかし先の「感性価値」からみると別の都市ランキングがあるように、ロンドンタクシーの何が優れているかを良く見極めないといけないと思う。ロンドン視察に参加した先のタクシー会社の社長さんが、乗務員養成学校の教官から聞いた話として、ブラックキャブの乗務員に必要な物は地理知識のみであり、利用者の移動の為にホスピタリティは問題にされない。その点では東京のタクシーの乗務員の方が、はるかに優れている。また東京の乗務員さんの制服や手袋、安全の為に点呼など、素晴らしいと思うとの事（この教官は東京訪問の経験があるらしい）。つまり先の都市の総合力ランキングで言えば、物的な充実度ではミニキャブを含めて七万両を

擁し、地理に通じたブラックキャブの存在するロンドンの方が上位という事になるが、「感性価値」から見る都市ランクでは、ことタクシーについては、東京の方が優れており、目指すべき「世界基準」ではないかと思う。厳しい学習と競争を経てブラックキャブの乗務員となった方には、誠申し訳ないし、またもちろんその努力を尊敬はするのだが、地理情報・ルート情報については、このITの時代、コンピュータに代替可能な世界である。むしろ「感性価値」、とりわけその社会が持つ「民度」に支えられた「おもてなし」による移動自体の「快適性」こそ、めざすべき「世界基準」ではないかと思う。多分東タク協のロンドン視察団も改めてその思いを強くし、そして東京、及び日本のタクシー業界が持つ世界（史的役割（少し大袈裟かな？）を感じられたのではないのかなと思う。この東京（&日本）の持つ「感性価値」は、あちこちに溢れている。訪日外国人が、そのプロダ

などで、こそばゆい位に日本社会の「民度」の高さを誉めてくれている。道路やトイレの清潔さ、歩行者優先の運転マナー、物を失くしても返ってくる確率の高さ。高級店から庶民向けの店まで、その接客態度の素晴らしさなど。その中に必ず、タクシーの乗務員さんのおもてなしの接客が入っている。もちろん残念ながら、すべての乗務員さんと言う訳にはいかない。しかし、全世界のタクシーが基本的に個人ベースの運営をしているのに対し、日本は法人を主体に運営され、法人経営者の責任の下に、こうしたホスピタリティをより担保しやすい構造を持っていると思う。日本企業の経営の多くは、自社の利益だけでなく、「三方よしの精神」で運営されており、その歴史が、日本社会の「感性価値」を高め、「クール」日本を作り、結果として世界の人を惹きつける、魅力ある都市を作る底力になるのだと思う。タクシーはその最前線にいる！

（2014年12月21日）

**タクシー買取専門店だから出来る高価買取**  
**LPG、ガソリン、過走行、低年式等でも大丈夫!**

**株式会社ジェット**  
**☎ 03-6454-9896**

〒174-0041 東京都板橋区舟渡 1-15-9 ブローブ浮間舟渡 101 FAX: 03-6454-9994 東京都公安委員会 第305561207814号